



# 平成27年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成27年10月22日

上場取引所 東

上場会社名 B-R サーティワン アイスクリーム株式会社

コード番号 2268 URL <http://www.31ice.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 渡辺 裕明

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部 経理部長 (氏名) 肥沼 邦幸

TEL 03-3449-0331

四半期報告書提出予定日 平成27年11月6日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成27年12月期第3四半期の業績(平成27年1月1日～平成27年9月30日)

### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年12月期第3四半期	14,085	△1.5	△126	—	△108	—	△105	—
26年12月期第3四半期	14,305	△10.5	550	△65.3	578	△64.6	321	△65.7

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年12月期第3四半期	△10.96	—
26年12月期第3四半期	33.33	—

### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年12月期第3四半期	17,690	9,789	55.3
26年12月期	17,063	10,772	63.1

(参考)自己資本 27年12月期第3四半期 9,789百万円 26年12月期 10,772百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年12月期	—	40.00	—	40.00	80.00
27年12月期	—	40.00	—	—	—
27年12月期(予想)	—	—	—	—	—

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

## 3. 平成27年12月期の業績予想(平成27年1月1日～平成27年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	18,400	△1.1	90	△85.5	130	△78.5	10	△96.4	1.04

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報(注記情報)に関する事項(1)四半期財務諸表に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年12月期3Q	9,644,554 株	26年12月期	9,644,554 株
27年12月期3Q	8,561 株	26年12月期	8,561 株
27年12月期3Q	9,635,993 株	26年12月期3Q	9,635,993 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	8
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間（平成27年1月～9月）における我が国経済は、円安効果による輸出環境の改善や経済政策の効果により緩やかな景気回復が続いておりますが、震災以降の消費行動の変化による外食市場の縮小と中食の増加など、お客様の消費選別がますます進展いたしました。その影響により外食業界では業態を超えた競争が激化し、更に平成26年4月の消費増税による可処分所得の実質目減りなど国内景気の下振れ要因もあり、依然厳しい状況が続いております。

このような環境の下、当社ではサーティワンアイスクリームの永遠の経営モットーであります“*We make people happy.*”「アイスクリームを通じて皆様に幸せを。」をスローガンに、全てのお客様に高品質で美味しいアイスクリームと“FUN（楽しいこと、嬉しいこと、感動すること）”に満ちたひとときを提供し、日本で最も愛され親しまれるチェーンとなることを目指すとともに、企業の継続的成長の維持と、企業価値の増大に努めてまいりました。

今年のマーケティング戦略としては、女子高校生やファミリー層を中心とした既存のお客様を、魅力的なキャンペーンの実施や新しい商品の発売により確実に取り込んで売上の向上を図ってまいります。そのためTVCMやSNSのメディアを活用してキャンペーンや商品をしっかりと告知いたします。

営業面においては、1月はアイスクリームの詰め合せ商品であるバラエティパック・ギフトボックスをお買い上げのお客様に、‘スヌーピー’ハッピー小皿をプレゼントするニューイヤープロモーション（1月1日～1月12日）を実施し、フレーバーのバラエティさ・楽しさを訴え、高単価商品の拡販とヘビーユーザーの再来店を促進いたしました。また、ハッピードールには今年の干支に因んだお正月限定の“ひつじ”（1月1日～1月12日）を登場させ、イトイン商品強化による新規顧客の獲得を図りました。更に、アイスクリームケーキでは、大人気のディズニー映画「アナと雪の女王」とタイアップした“‘オラフ’ハッピースノーマン”（1月1日～）を新発売し、アイスクリームケーキへのお客様の興味を喚起して拡販を図りました。

そして1年で最もチョコレート需要が高まるこの時期に、チョコレート尽くしのプロモーション「チョコレートフェスタ」（1月13日～3月3日）を実施して、幅広い顧客層の購買意欲を高めました。商品ラインナップとしては新しいフレーバーの“ラブポーションサーティワン ダーク”に加え“ジャーマンチョコレートケーキ”、“アマレットショコラ”などサーティワンの豊富なチョコレートフレーバーの中から選りすぐりの7種類を取り揃えました。サンデーでは、期間限定の4種類のチョコレートサンデーや新しいアイスクリームの食べ方を提案した“チョコレートフォンデュ”をバラエティパックとセットで販売いたしました。

「チョコレートフェスタ」と並行して実施した「ひなまつりセール」（2月16日～3月3日）では、オケージョン商戦の売上を確保するため“ひなだんかざり”、“おひなさまカップ”、“いちごおひなさまカップ”など期間限定商品を販売いたしました。更にひなまつり仕様の“ひなまつりアイスクリームケーキ”2種類を2月28日までにご予約いただいたお客様に「キッズコーン券」プレゼントを実施いたしました。

3月4日からは、5年目を迎える「ワンダフルイースター」フェア（3月4日～4月5日）を実施し3月の売上増を図りました。この期間はイースターらしいタマゴをモチーフにした“シングルエッグカップサンデー”に新商品“ダブルポップスクープサンデー”を加え、持帰り商品として“イースターバラエティBOX”、イースターに因んだアイスクリーム2種類（トリプルフルーツガーデン、イースターエッグハント）を販売するとともに、フェアのスタートに合わせてアイスクリームケーキ“ひよっぴー”を新発売いたしました。

更に、ヘビーユーザーやミドルユーザーの来店頻度を高め冬場の売上を下支えする為、1月13日から4月5日までの83日間、期間中お買上げ200円ごとにスタンプ1個を押印し、スタンプ12個でキッズコーンまたはキッズカップをプレゼント、スタンプ20個で500円相当の商品と交換する全店共通の“スタンプカードキャンペーン”を実施いたしました。

ゴールデンウィーク期間中（4月24日～5月10日）にはダブルコーン・ダブルカップを31%値引きして提供するキャンペーンを行ない、TVCMでの告知を実施しヘビーユーザーや新しい顧客へ周知し来店促進を図りました。

5月は11日から30日まで戦略商品のアイスクリームケーキのTVCMを実施するとともに、店頭告知を強化し、売上増へと繋げました。

6月は、日頃のご愛顧の感謝を込めて「THANK YOU 4」プロモーション（6月1日～6月28日）を実施いたしました。これはスモールサイズのダブルコーン・ダブルカップと同じ値段で、ミニサイズ・スクープを4種類選べ、更にアイスクリームが40%増量の大変お得なプロモーションです。これについても期間中TVCMで告知をして拡販を図り、来店者数を伸ばしました。

7月には大好評の「チャレンジ・ザ・トリプル」（7月1日～7月30日）を実施し、TVCMとともに、携帯電話サイト「31cLub」やLINE、FacebookなどのSNSも活用してキャンペーン告知を強化いたしました。

最盛期の8月には新商品“クラッシュアイス”とテイクアウト商品“バラエティパック”の商品訴求プロモーションと

してTVCMによる告知を実施し、更にバラエティパックをお買い上げのお客様全員に“‘スヌーピー’ ハッピーグラス”をプレゼントいたしました。

9月には米国バスキン・ロビンスの創業70周年を記念して世界同時発売の新フレーバー“バナナスプリットサンデー”を発売し、5種類のアメリカン・クラシックフレーバーズと、期間限定の“ポップコーン&バナナサンデー”を登場させ、店内ディスプレイをアニバーサリー感いっぱいにして盛り上げました。また6年ぶりの大型5連休になったシルバーウィークには今年もダブルコーン・ダブルカップを31%値引きするキャンペーン（9月12日～9月23日）を実施し、お客様の来店促進を図りました。

店舗開発及び改装の状況といたしましては、平成26年から新しい店舗デザイン「Happy1.0」を導入し、店舗イメージ刷新を図っております。新しい店舗は当期32店開設し、当第3四半期末の店舗数は1,181店舗と前第3四半期末に対して22店舗増加いたしました。改装は当期48店実施し、既存店へも新しい店舗デザインの導入促進をいたしました。

以上のように、キャンペーンの実施や商品の強化と出店・改装の推進により、売上増進に取り組んでまいりました。

しかし売上高は、平成26年4月の消費税増税の影響の長期化や、食品その他の一斉値上げによる消費意欲の緊縮傾向により外食市場全体が縮小したことに加え、お盆以降の低気温や台風襲来、大雨等の天候面の影響もあり、140億85百万円（前年同期比1.5%減）と、前年を下回る結果となりました。

売上原価は、国内乳原料価格上昇及び円安による輸入原材料価格上昇の影響と、神戸三木工場の稼働開始による製造経費の増加等により、70億15百万円（前年同期比12.9%増）となっております。

販売費及び一般管理費は、71億97百万円（前年同期比4.6%減）となりました。これは昨年とのマーケティング・プランの違いやTVCMの投下時期の違いによる広告宣伝費の減少（2億30百万円）が主な要因です。

以上の結果、営業損失は1億26百万円（前年同期は営業利益5億50百万円）、経常損失は1億8百万円（前年同期は経常利益5億78百万円）、四半期純損失は1億5百万円（前年同期は四半期純利益3億21百万円）と、当第3四半期累計期間は減収減益となりました。

なお、当社はアイスクリーム製品の製造及び販売等を行う単一セグメントのため、セグメント情報の記載を省略しております。

## （2）財政状態に関する説明

当第3四半期末における総資産は前事業年度末に比べ6億26百万円増加の176億90百万円となりました。これは主に、配当金と法人税の支払いによる現金及び預金の減少、12月と9月の売上ボリューム差等による売掛金の減少がありましたが、製品及び原材料の増加、神戸三木工場建設と新規出店等による有形固定資産の増加と、新規出店による敷金及び保証金の増加がこれを上回ったため、総資産は増加いたしました。

負債は前事業年度末に比べ16億8百万円増加の79億円となりました。これは主に、神戸三木工場建設等にかかる未払金の減少がありましたが、運転資金の調達による短期借入金の増加がこれを上回ったため、負債は増加いたしました。

純資産は前事業年度末に比べ9億82百万円減少の97億89百万円となりました。これは主に、剰余金の配当額と四半期純損失の計上により繰越利益剰余金が減少したことによるものです。

## （3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期業績予想につきましては、平成27年4月24日公表の「平成27年12月期第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）」から修正しております。詳細につきましては、本日（平成27年10月22日）に公表いたしました「平成27年12月期業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当事業年度の予想税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、税引前四半期純損益に一時差異等に該当しない重要な差異を加減した上で、法定実効税率を乗じて計算しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## 3. 四半期財務諸表

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,982,026	1,620,903
売掛金	2,859,504	2,717,097
製品	697,354	1,095,543
原材料	438,741	675,710
貯蔵品	237,268	211,979
前渡金	45,397	66,469
前払費用	179,136	192,140
繰延税金資産	32,194	88,875
未収入金	17,570	51,206
未収還付法人税等	52,675	-
その他	236,606	170,872
貸倒引当金	△393	△296
流動資産合計	6,778,081	6,890,502
固定資産		
有形固定資産		
建物	3,473,182	3,793,325
減価償却累計額	△1,223,013	△1,319,791
建物(純額)	2,250,168	2,473,533
構築物	332,417	432,864
減価償却累計額	△153,927	△153,754
構築物(純額)	178,490	279,110
機械及び装置	2,284,778	3,607,667
減価償却累計額	△1,770,043	△1,861,772
機械及び装置(純額)	514,734	1,745,894
賃貸店舗用設備	3,513,430	3,611,677
減価償却累計額	△1,953,484	△2,006,263
賃貸店舗用設備(純額)	1,559,945	1,605,413
直営店舗用設備	418,142	429,646
減価償却累計額	△190,971	△202,802
直営店舗用設備(純額)	227,170	226,843
車両運搬具	72,064	80,685
減価償却累計額	△40,514	△48,293
車両運搬具(純額)	31,549	32,392
工具、器具及び備品	759,070	821,805
減価償却累計額	△627,767	△632,539
工具、器具及び備品(純額)	131,302	189,266
土地	695,362	695,362
建設仮勘定	1,245,368	22,397
有形固定資産合計	6,834,093	7,270,214
無形固定資産		
ソフトウェア	146,383	164,621
電話加入権	17,065	17,065
無形固定資産合計	163,448	181,687

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年9月30日)
投資その他の資産		
投資有価証券	41,832	42,083
長期貸付金	2,397	1,692
従業員に対する長期貸付金	7,728	6,745
破産更生債権等	138,644	136,365
長期前払費用	541,343	484,537
繰延税金資産	123,792	124,588
敷金及び保証金	2,446,580	2,563,478
その他	19,685	19,685
貸倒引当金	△34,021	△31,286
投資その他の資産合計	3,287,982	3,347,890
固定資産合計	10,285,524	10,799,791
資産合計	17,063,606	17,690,294



(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	535,769	479,961
短期借入金	-	2,500,000
1年内返済予定の長期借入金	199,952	199,952
未払金	2,028,691	1,095,170
未払費用	32,685	35,903
前受金	919,795	786,979
預り金	116,800	404,642
賞与引当金	27,694	100,651
ギフト券回収損失引当金	85,121	77,612
その他	39,359	92,441
流動負債合計	3,985,870	5,773,314
固定負債		
長期借入金	800,048	650,084
退職給付引当金	170,936	169,630
役員退職慰労引当金	68,300	44,750
資産除去債務	85,676	82,414
長期預り保証金	1,180,569	1,180,123
固定負債合計	2,305,530	2,127,002
負債合計	6,291,400	7,900,316
純資産の部		
株主資本		
資本金	735,286	735,286
資本剰余金		
資本準備金	241,079	241,079
資本剰余金合計	241,079	241,079
利益剰余金		
利益準備金	168,676	168,676
その他利益剰余金		
別途積立金	4,140,000	4,140,000
繰越利益剰余金	5,416,888	4,540,389
利益剰余金合計	9,725,565	8,849,065
自己株式	△16,893	△16,893
株主資本合計	10,685,036	9,808,537
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,807	3,904
繰延ヘッジ損益	82,361	△22,464
評価・換算差額等合計	87,168	△18,560
純資産合計	10,772,205	9,789,977
負債純資産合計	17,063,606	17,690,294

## (2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)
売上高	14,305,709	14,085,957
売上原価	6,211,214	7,015,010
売上総利益	8,094,494	7,070,947
販売費及び一般管理費	7,543,550	7,197,858
営業利益又は営業損失(△)	550,944	△126,911
営業外収益		
受取利息	439	502
店舗用什器売却益	41,250	41,242
受取ロイヤリティー	320	11,633
その他	2,069	7,406
営業外収益合計	44,079	60,785
営業外費用		
支払利息	1,000	10,850
店舗設備除去損	11,028	15,135
製品廃棄損	3,997	16,078
その他	251	314
営業外費用合計	16,277	42,378
経常利益又は経常損失(△)	578,746	△108,504
特別利益		
補助金収入	-	76,774
特別利益合計	-	76,774
特別損失		
固定資産売却損	248	-
固定資産廃棄損	34,560	22,912
特別損失合計	34,808	22,912
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	543,937	△54,642
法人税等	222,754	50,976
四半期純利益又は四半期純損失(△)	321,183	△105,619

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。